

心のおごとに

2年

僕は高校まで器楽に接してきたのですが、僕の音楽体験で絶えず求めてきたものは「音楽のやさしさ」でした。何もかも包み込んでくれる、心が自然に表現出来て訴えるものを秘めた音楽です。梨大合唱に慣れ親しんできた今、素直に心を開けば、何の不自然さもなく自分の心の中に溶け込んでくるこの合唱のすばらしさを知り、自分の求めてきた音楽のやさしさを見つけることが出来ました。

2年

私は自分が音痴だということを堅く信じていました。先輩に勧められて入団したものの、なかなか音は取れないし、一人だけ取り残された気持でした。「やはり音痴というものは救いようのないものだ。団を止めよう」と何度も考えたことか……そんな毎日の中で佐々木先生の「耳をひらく」を読み、「音痴はない」という先生のお言葉を信じて続けてきましたが、夏合宿も二度経験して、今迄築いてきた人前で歌うことの恐怖感の壁を少しづつ打ち碎いて、まだ弱くとも、私の進む道に光が見えてきた思いです。何人かの人が集まって出来る合唱——1人がおかしな声を出してその芸術を壊すことが恐ろしかった。しかし、今私はハーモニーの中にいます。夢のように信じがたい事実です。先生にはこれからも元気で私のような人間をも救ってほしいと切に願っています。

2年

「合唱団に入つて本当によかったです」と思っています。元来歌が嫌いで合唱なんか意味がないとバカにしていたボクなのです。ハーモニーのすばらしさがわかつてくると、歌っている時の気持は何とも言えない——ボクは計算機科学科でコンピューターと毎日つき合っています。コンピューターの無限の可能性に魅かれて入つたのですが、今になって所詮コンピューターとはさびしいものだと思うようになりました。コンピューターとつき合っていると人間は合理主義的になりがちですが、こういう時にこそ、ハーモニーが必要だということがわかりました。毎日30分でも歌つているとホッとします。こういう世の中に在つて、一生ハーモニーに触れていられたらすばらしいなあ！

2年

夏合宿の1週間は1日1日が価値のある日々でした。私にまつわりついていた悩みや、余計な考えが取り払われて、1週間たつて気がついてみたら、そこにあるのは素直になつた自分でした。ハーモニーに浸ると素直な自分が取り戻せるというのは不思議だし、幸せなことだなと思いました。先生のおつしやる通り、ハーモニーは人の心を純化させる働きがあるのですね。ハーモニーを知らない人は一体どんな時に素直な心を取り戻すのでしょうか。感謝したい気持でいっぱいです。

3年

夏合宿を終えて、先生が常在寺をお発ちになる時「こんな村に住みたい」とおつしやつたことが忘れられません。お料理をしながら誰かが歌い出すとハーモニーになり、お掃除の片手間に誰かが歌い出すとハーモニーが響き……ほんとうに素晴らしい世界だなって思いました。それと同時に、もっと家族友人を思いやつて合唱団以外の結びつきの中にもハーモニーをどんどん作つてゆかなくてはいけないのだと思いました。

4年

4回目の夏合宿が終つてしまい淋しい気持です。考えてみれば、私は梨大に来るまで、それこそ周囲から“音痴”と言われて1人で隠れて歌う有様でしたから、いくら歌が好きでも合唱団には入れないと諦めていました。しかし4年経つた今、合唱は私にとってではなくてはならぬものとなり、素晴らしい幸福感に浸っています。今夏の合宿で、改めて「聞く」ということは歌う時だけでなく、日常の生活の中でも周囲の人達の声や心を聞くことだと思いました。4年間合唱團にいて私自身多くの人達に支えられて生きていることを感じるようになり、父のありがたさも知りました。合唱で学んだ全てがこれから私にとって大きな力になってゆくことだろうと思います。